天吊形　据付工事説明書

PFA012D614A

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管頂くように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策をする。
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏、火災、感電などの原因になります。
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●配管、フレアナット、工具は R410A 専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
●電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

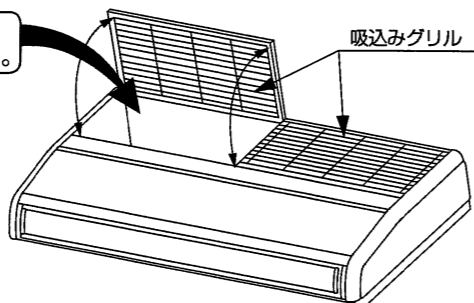
⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
●正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
大きな容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
●洗濯室など、水の掛かる場所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
●次の場所への据付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・車両・船舶など移動するものへの設置
・高周波を発生する機械を使用する所
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・海浜地区など塩分の多い所
・積雪の多い所
・煙突の煙がかかる所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管は硫黄系ガスなど、有害ガスの発生する排水溝には直接入れない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付のまえに

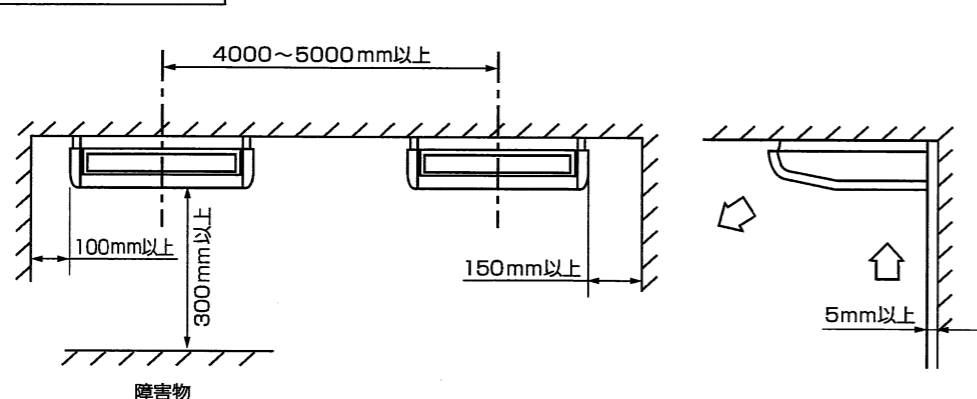
●据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用				吸込みグリル用
平座金（M10）	型紙	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	ドレンホース（クランプつき）	固定金具	ねじ（M4）	断熱材	ねじ
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	2個	1個	4個
ユニット吊下げ用	ユニット吊込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレン配管接続用	ドレンホース固定用	固定金具取付用	ドレンホース用	グリル固定用

②室内ユニットの据付場所の選定

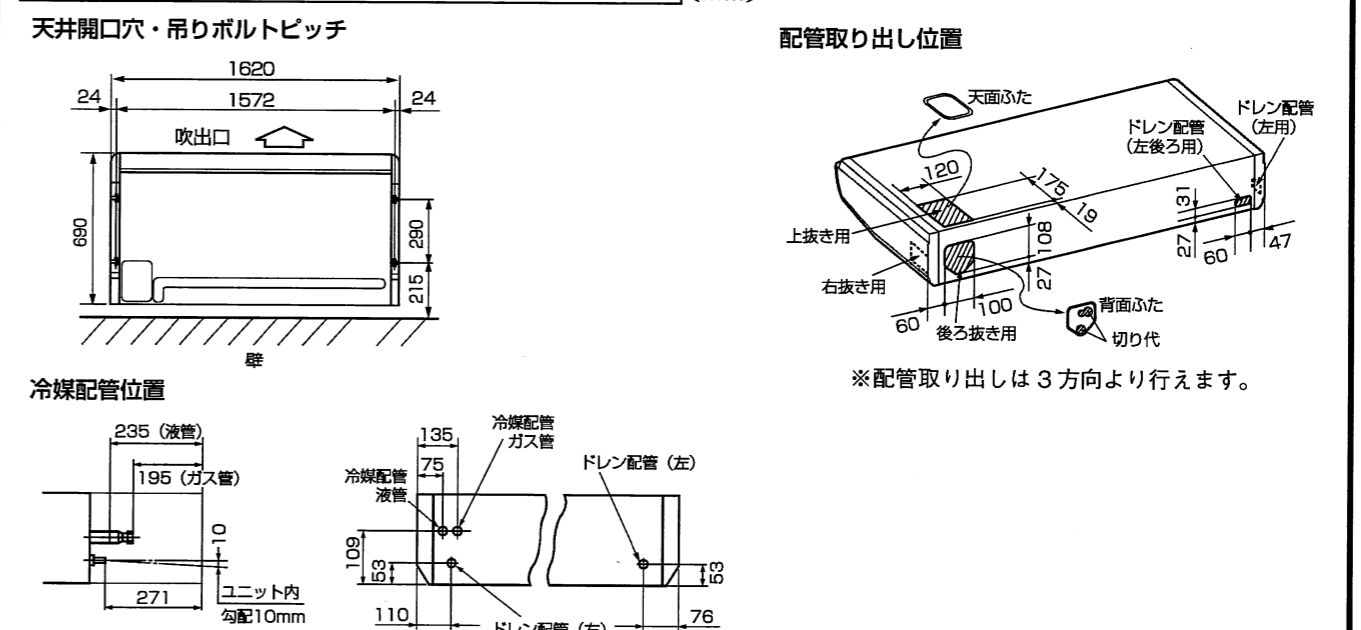
①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 23℃以下、相対湿度 80% 以下の所。
ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。天井埋込で据付ける際は、ユニット天面に断熱材を貼り付けるなど、結露に対する配慮をしてください。
・テレビ、ラジオより 1m 以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接、吸込まない所。
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁などで補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
③室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

4000～5000mm以上
100mm以上
300mm以上
150mm以上
5mm以上
障害物

③据付け前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上又は天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置〔mm〕

※配管取り出しは３方向より行えます。

ユニットの搬入、据付

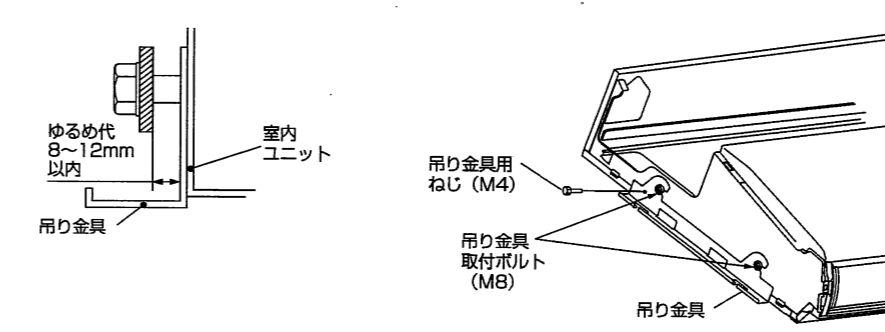
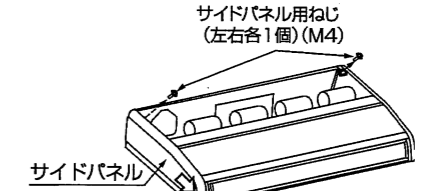
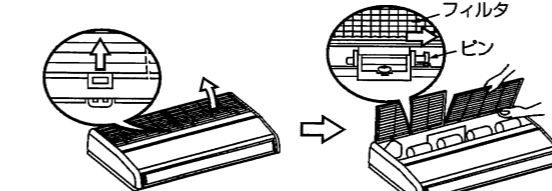
●搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
●開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、ユニットを傷つけないよう注意してください。
※サイドパネル、吹出ルーバなど、プラスチック部分を持たないでください。
●開梱後ユニットをおく場合は、必ず吸込みグリル側を上にして置いてください。

吊り込み前の準備

1．吸込みグリルの取り外し
ストッパーをスライドさせ、ピンを抜いてください。

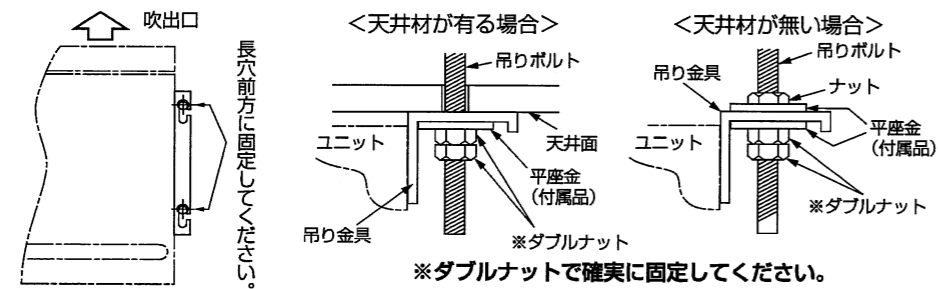
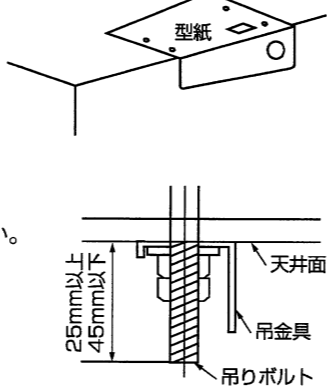
2．サイドパネルの取り外し
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。

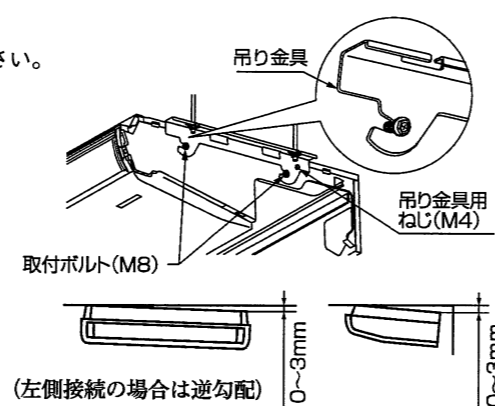
3．吊り金具の取り外し
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。

裏面へつづく

④室内ユニットの据付け

作業手順

1．吊りボルト位置、配管位置を選定してください。
 (1) 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。
 ※注意：位置決定は、実測により行ってください。
 (2) 位置決定後、型紙は取り外してください。
2．所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3．吊りボルトは４本使用し、１本当り５００Ｎの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4．吊りボルト長さは右図の寸法を厳守ください。
5．吊り金具を吊りボルトに固定してください。

※ダブルナットで確実に固定してください。

6．ユニットを金具に据付けてください。(右図参照)
 (1) 吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
 (2) 取付ボルト（M8）を左右４箇所確実に締め付けてください。
 (3) ねじ（M4）を左右２箇所締め付けてください。

⚠警告：サイドパネルは前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。
ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。

※ドレン水を流れやすくするためにユニットを排水側に下り勾配を設け、据付けてください。

⚠注意：逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●**冷媒配管は、新規配管をご使用ください。**
冷媒Ｒ２２で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点を注意してください。
・フレアナットは製品に付属されているもの（ＪＩＳ第２種）に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
・薄肉配管の使用は避けてください。

●**冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ ３３００）をご使用ください。**
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉など（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

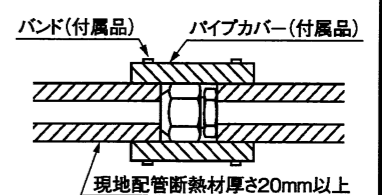
●**Ｒ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。**
Ｒ４１０Ａ以外（Ｒ２２など）の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●**据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。**
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●**工具はＲ４１０Ａ専用ツールを使用してください。**

作業手順

1．室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
 ※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
 （このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
 ●**フレアナット飛びに注意してください。**（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
 ※配管の曲げはできるだけ大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。
 また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。
 ※フレア接続は、以下のように行ってください。
 ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
 ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで右表の締付け力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締付けてください。
 ●**ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。**
 ※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
 室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

パイプ径	締付力 N・m
φ６.３５	１４～ １８
φ９.５２	３４～ ４２
φ１２.７	４９～ ６１
φ１５.８８	６８～ ８２
φ１９.０５	１００～１２０

⑥ドレン配管

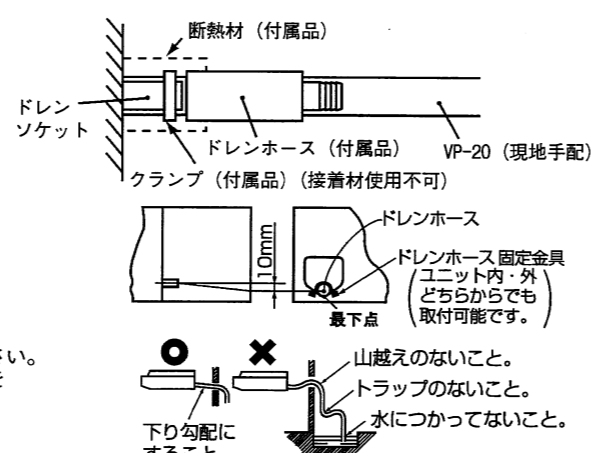
●ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

ドレン配管時の注意事項

●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
●**ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●**接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**
●**水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**
●**施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。**
●**ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。**
試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

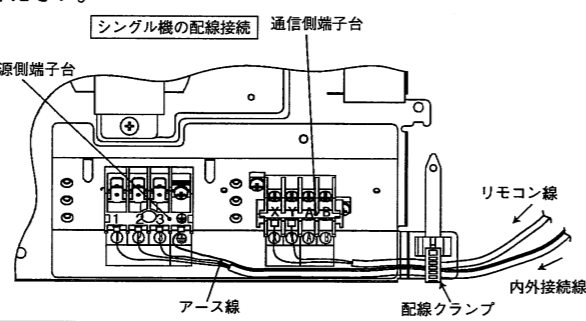
⑥ドレン配管の続き

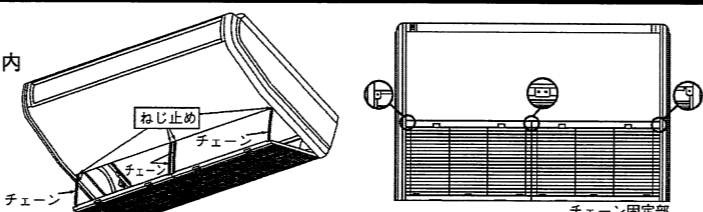
作業手順

1．付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差し込み、付属のクランプで確実に締付けてください。（接着剤使用不可）
 ※ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け替えてください。
 ⚠注意：ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。
2．ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。
 ※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように１０mmの勾配をつけてください。
 ●電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。
 ⚠注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。
 ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。
3．ドレンホースにＶＰ－２０（現地手配）を接続してください。
 （接着剤使用不可）
 ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ－２０を使用してください。
4．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
 ●エア抜きは絶対に設けないでください。
5．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
 ●ドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。
 ●高湿度の環境で使用するなど、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加するなど結露に対する配慮をしてください。

ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

⑦電気配線取出し位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●Ｄ種設置工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。

⑧吸込みグリルの固定

●電気配線工事完了後、吸込みグリルを固定してください。
1．吸込みグリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取付け、吸込みグリルを閉じてください。

⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩風向設定のしかた

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を、変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは、設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

1．［セット］ボタン［風向調整］ボタンを同時に３秒以上押す
 リモコンに接続されている室内ユニットが１台の場合、下記の表示がでます。
 その後、４項へお進みください
 「データ確認中」→「ルーバ No.1 ▲」
 リモコンに接続されている室内ユニットが複数の場合、下記の表示がでます。
 風向設定をする室内ユニットを選択します。２項へお進みください。
 「室内機選択◆」→「内 000 ▲」

2．［▲］または［▼］ボタンを押す
 風向設定する室内ユニットを選択してください。
 ［例］「内 000 ▲」⇔「内 001 ◆」⇔「内 002 ◆」⇔「内 003 ◆」

3．［セット］ボタンを押す
 選択した室内ユニットが確定します。
 ［例］「内 001」→「データ確認中」→「ルーバ No.1 ▲」

4．［▲］または［▼］ボタンを押す
 設定するルーバ番号を選択してください。
 ［例］「ルーバ No.1 ▲」⇔「ルーバ No.2◆」⇔「ルーバ No.3◆」⇔「ルーバ No.4 ▼」
 ※注意：「ルーバ No.1 ▲」を選んでください。その他ルーバ No. を設定しても無効となります。

5．［セット］ボタンを押す
 ルーバ作動範囲の上限位置を選択します。
 ［例］「No.1 上位置 2◆」←現在の上限位置を表示します。

6．［▲］または［▼］ボタンを押す
 ルーバの上限位置を選択します。
 位置１が最も水平で、位置６が最も下向きとなります。
 「位置−−」は、出荷時の位置に戻すための番号です。
 出荷時状態に戻す場合は、「位置−−」を選択してください。
 ［例］「No.1 上位置 1 ▼」⇔「No.1 上位置 2◆」⇔「No.1 上位置 3◆」⇔「No.1 上位置 4◆」⇔「No.1 上位置 5◆」⇔「No.1 上位置 6◆」⇔「No.1 上位置−−▲」

(水平) ①　②　③　④　⑤　⑥ (下向き)
ルーバ位置

7．［セット］ボタンを押す
 上限位置が確定し、設定位置を２秒間表示します。その後、下限位置選択表示となります。
 ［例］「No.1 上 2」←確定内容を２秒間表示
 ↓
 「No.1 下位置 5◆」←現在の下限位置を表示します。

8．［▲］または［▼］ボタンを押す
 ルーバの下限位置を選択します。
 「位置 1」が最も水平で、「位置 6」が最も下向きとなります。
 「位置−−」は、出荷時の位置に戻すための番号です。
 出荷時状態に戻す場合は、「位置−−」を選択してください。
 ［例］「No.1 下位置 1 ▼」⇔「No.1 下位置 2◆」⇔「No.1 下位置 3◆」⇔「No.1 下位置 4◆」⇔「No.1 下位置 5◆」⇔「No.1 下位置 6◆」⇔「No.1 下位置−−▲」

9．［セット］ボタンを押す
 上限位置、下限位置が確定し、設定位置を２秒間点灯し、設定完了となります。
 設定完了後、設定したルーバNo.のルーバが、停止位置から下限位置まで移動し、その後停止位置に戻ります。
 (但し、リモコンが停止モードであっても、ファン残留運転などで、室内ユニットが運転している場合は、本動作はしません。)
 ［例］「No.1 上 2 下 6」←確定内容を２秒間表示
 ↓
 「設定完了」
 ↓
 「ルーバ No.1 ▲」←選択したルーバ No. 表示へ戻る。

10．［運転／停止］ボタンを押す
 風向設定モードを終了し、元の表示に戻ります。

＊ご注意・上限値と下限値を同じ位置に設定すると、ルーバはその位置で固定され、オートスイングをしても動きません。
 ・設定の途中で、［リセット］スイッチを押すと、１回前の表示に戻ります。また、設定の途中で、［運転／停止］スイッチを押すと、本モードを終了し元の表示に戻ります。但し、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
 ・リモコンが親子接続されている場合、子リモコンでは、風向設定操作はできません。